

1.3 ロクロ製品のデザイン開発並びに試作研究

宮崎 徹^{*} 玉造公男^{***} 大野善隆^{***}

1. 目 的

近年当日田地区では、漆産業の衰退によりロクロ技術者の減少やロクロ技術の保存が危ぶまれている。技術者の養成等望まれるが、ロクロ製品に対して、魅力ある製品作りと共に、新しいライフスタイルを元にした、新たな提案と展開を図る必要がある。以上の様な現状を前提に、地域特産材のスギ材を活用し、ロクロ製品のプロトタイプの開発研究を目的とした。

2. 内 容

ロクロ加工に適した商品質の材料の不足及び需要の問題等により、自ずと材料が限定されることは否めない。限定された材料本来の持ち味を十分に生かすことが、ロクロ製品の特性だと考えられるが、開発に当たっては、以上の様な材料特性に重点を置く方向ではなく、ライフスタイルやフロアウェアを念頭に、形態を優先する方向で、「軽・薄」をキーワードに7タイプを展開した。

加工については、外注方式を取った。材質を知りぬいた高度なロクロ技術を要したと思われる。

表面処理については、タイプ別に3種類の方法を選択した。

- ① スギ綾塗り仕上げ (試作1～5)
- ② 黒摺り漆仕上げ (試作6)
- ③ エナメルマット仕上げ (試作7)

3. 結果及び考察

ちなみに、前記ロクロ云々の場合、現状では多くの場合機械ロクロではなく、手ロクロを指す。

従来のロクロ製品が、厚く重くなる傾向にあるのは、材質の強度(材料特性)や加工技術に制約を受けることが原因の一つで、特に、スギ材やスギ集成材については制約が大きい。ある程度の重さは必要ではあるが、日常使用する場合、適度の重さ(視覚的な重さも含めて)が重要である。今回の開発に当たっては、形態断面の厚み(視覚的な重さが端的に現れる)の決定には、極力薄く軽い方向で検討を加えたが、結果的には、上記の制約を受けざるを得なかった。

今後の開発では、表面処理の問題も含めて視覚的な重さあるいは軽さに重点を置いた展開ができればと考える。

問題点としては、コスト、市場設定、素材の生かし方等検討課題が残された。

また、評価については、インテリアの小物としてのイメージアップ及びテーブルウェアに新提案ができたと考える。

以下試作写真を提示する。

* デザイン研究室, *** 塗装技術研究室

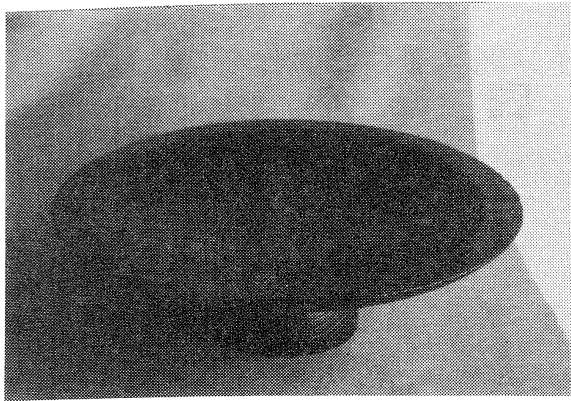


写真1

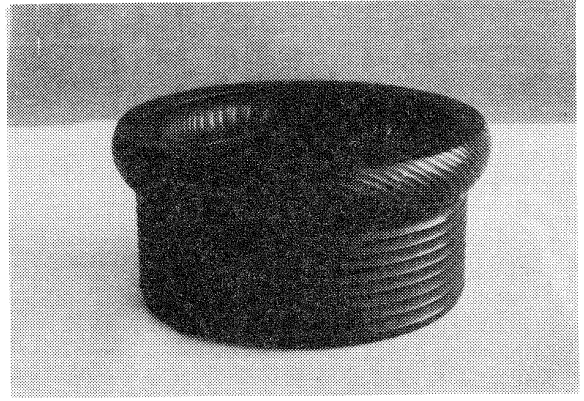


写真5

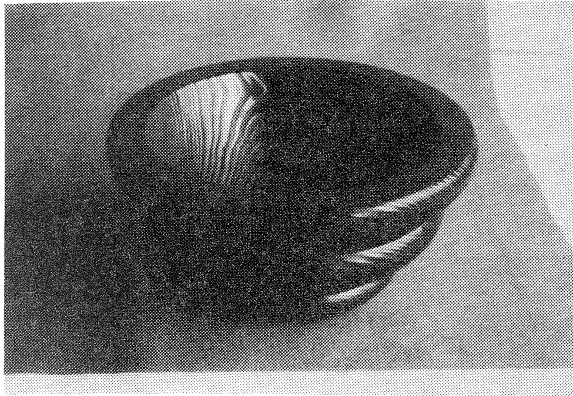


写真2

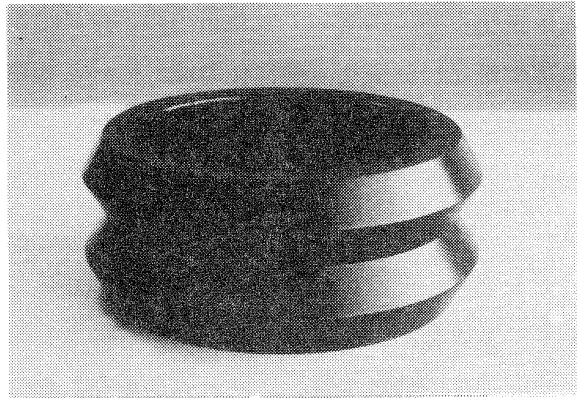


写真6

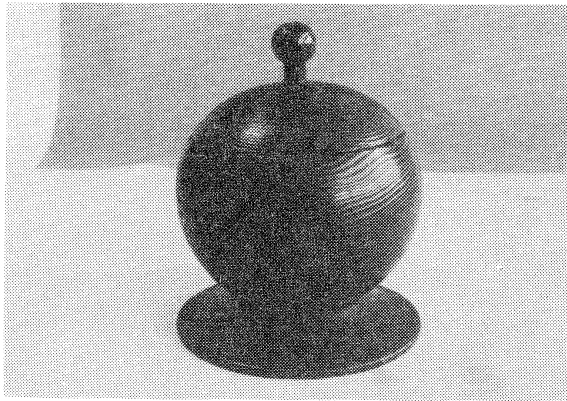


写真3

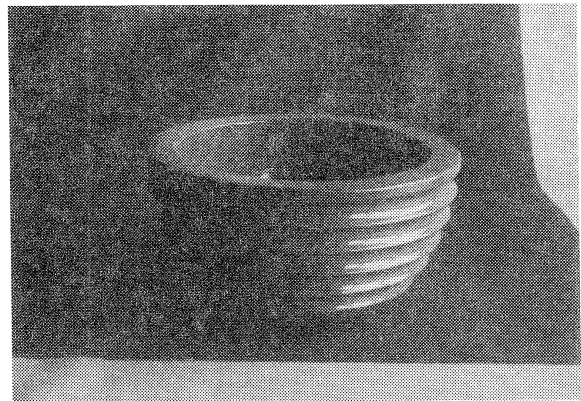


写真7

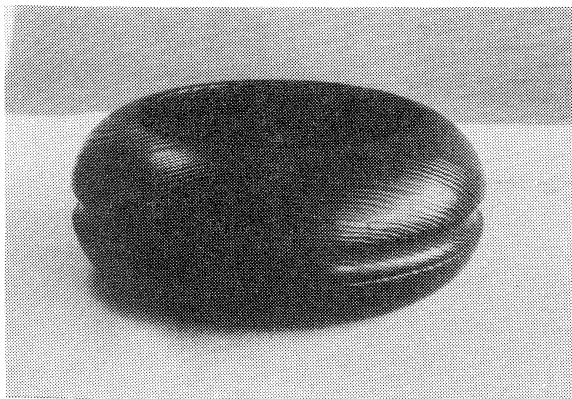


写真4

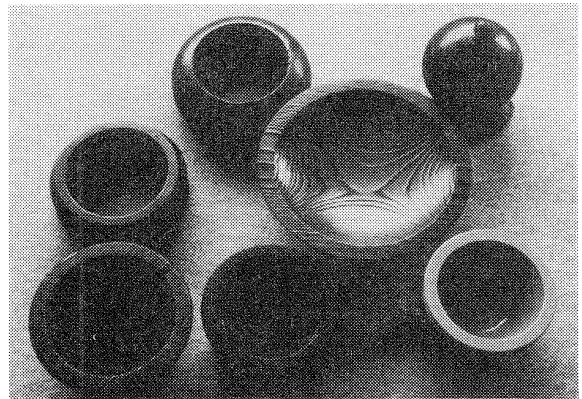


写真8